

**アドイン N 対 N 照合 TypeA プログラム  
for アシストパック Pro BHT-1300  
取扱説明書 第 1 版**



2016年 12月 1日  
コンピュータ・アシスト株式会社

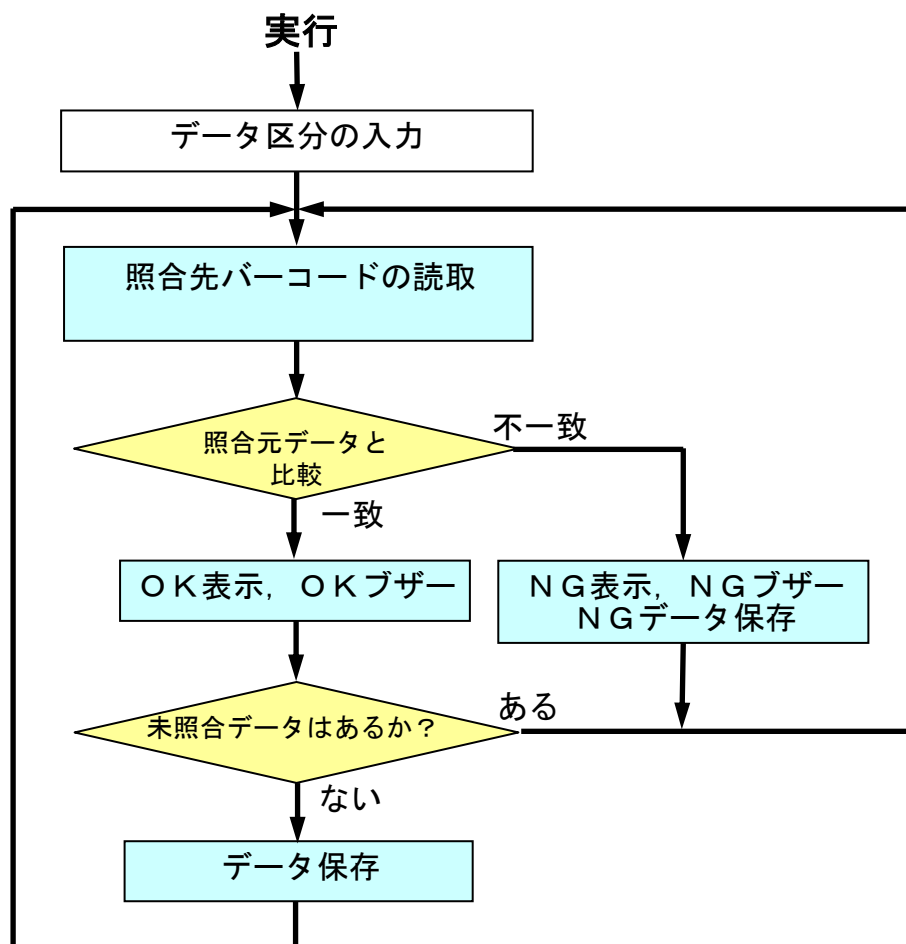


## 目次

1 機能概要 .....	1
2 動作設定 .....	2
2-1 データ区分 .....	3
2-2 照合条件 .....	4
2-2-1 照合元データ .....	5
2-2-2 照合先データ入力 .....	6
2-2-3 照合結果 .....	7
2-2-4 バーコード読取設定 .....	8
2-3 データ保存 .....	21
2-4 設定更新 .....	23
3 ハンディターミナルプログラム .....	24
3-1 アドインマスター参照照合プログラムダウンロード .....	24
3-2 業務設更新 .....	26
3-3 アドインN対N照合プログラム実行 .....	27
3-4 登録順照合 .....	28
3-5 順不同照合 .....	29
3-6 入力／データ処理エラー表示 .....	30
3-7 照合データ送信 .....	31
3-8 マスターファイル受信 .....	32

## 1 機能概要

照合先バーコードを読み取り、登録済み照合元データと照合（登録順または順不同）して、一致の場合はOK、不一致の場合はNGを表示して、設定条件に従ってデータを保存します。



N 対 N 照合
1 / M
照合先
4912345678901
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。 半角最大 100 文字
OK

N 対 N 照合
1 / N
照合先
4901234567890
照合先の情報表示
NG

## 2 動作設定

業務設定において、動作モードに「アドインプログラム」を選択し、プログラム名に「NNCA1300.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

「アドインプログラム」を選択

業務設定(N対N照合サンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務メニュー

N対N照合

BHT-1300画面

N対N照合

設定する  
アドイン業務プログラムの画面表示になります。

業務名 N対N照合 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム

プログラム名 NNCA1300.PD4

アドインプログラム設定

「NNCA1300. PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

## 2-1 データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

ここをクリック

「データ区分」を使用

マスターファイルを使用して情報を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」を設定します。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 ずり表示)，日付(YYYY/MM/DD)，日付(YY/MM/DD)，日付(MM/DD)，時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示，横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列，数字(0 詰め表示)，数字(0 ずり表示)のデータ入力桁数を、最大，最小で制限します。 入力範囲：1～180
バーコード	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
文字列表示マスター	「文字列表示マスターファイルを使用する」をチェックして、表示用マスターファイルを設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

## 2-2 照合条件

照合元データ，照合先データ入力，照合結果を設定します。

ここをクリック

N対N照合 設定(BHT-1300)

データ区分  
照合条件  
データ保存  
キャンセル  
更新

照合元データ

データ登録方法	
1	2060451680006
2	2060471980001
3	2060010650006

データ数 3

情報表示マスターファイル

照合先データ入力

項目名 部品コード

バーコード読取設定

照合順番 登録順

NG表示後の動作 再入力

照合結果

OK表示時間 30 1/10秒

NG表示時間 30 1/10秒

OKブザー設定

NGブザー設定

照合元データに関する設定をします。

照合先データ入力に関する設定をします。

照合結果の表示時間とブザー動作を設定します。

## 2-2-1 照合元データ

照合元データを「業務設定に登録」に設定した場合、ここに入力します。

- 1) データ登録方法  
「業務設定に登録」または「HTにおいて登録」を選択します。

業務設定に登録	データ数で設定した照合元データを右の入力欄に登録します。
HTにおいて登録	HTプログラムの最初の起動時に登録画面を表示します。

- 2) データ数  
登録する照合元データ数を設定します。

- 3) 情報表示マスターファイル  
照合データに関連する情報を、マスターファイルから参照して表示します。

第1フィールド	第2フィールド	...
照合データ	情報表示データ	...

### ● ファイルのフィールド構成

〈照合データ〉〈情報表示データ〉

注) 各データを半角100桁以内で作成してください。

照合データ、情報表示データの後に23フィールドあっても動作します。

## 2-2-2 照合先データ入力

照合先データ入力

項目名 照合コード

バーコード読取設定

照合順番 順不同

NG表示後の動作 最初からやり直す

- 1) 項目名  
照合先データ入力項目の表示文字列を入力します。
- 2) バーコード読取設定  
照合先データ入力項目におけるバーコード読取設定画面を開きます。
- 3) 照合順番  
照合順番が登録順（照合元データ 1，照合元データ 2・・・の順番）または順不同を選択します。
- 4) NG表示後の動作  
「再入力」，「最初からやり直す」から選択



## 2-2-3 照合結果

照合結果	
OK表示時間 <input type="text" value="30"/> 1/10秒	NG表示時間 <input type="text" value="30"/> 1/10秒
<input type="button" value="OK ブザー設定"/>	<input type="button" value="NG ブザー設定"/>

OK/NGを表示する時間を、1/10秒単位で0～99の数値を設定します。  
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

OKブザー設定	
WAVファイル <input type="text"/>	
周波数 <input type="text" value="1"/> Hz	鳴動回数 <input type="text" value="1"/> 回
鳴動時間 <input type="text" value="1"/> 1/10秒	休止時間 <input type="text" value="1"/> 1/10秒
動作デバイス <input type="text" value="ブザー"/>	
<input type="button" value="キャンセル"/>	<input type="button" value="確定"/>

WAVファイルを設定した場合は、WAVファイルを使用します。  
WAVファイルを設定しない場合は、周波数、鳴動回数、鳴動時間、休止時間を使用してブザー、バイブレータを動作させます。

設定項目	説明
WAV ファイル	下記の形式の音声ファイルを設定します。 ① ファイル形式 WAV ② オーディオ形式 PCM (リニアPCM) ③ サンプル周波数 8KHz～48KHz ④ サンプルサイズ 8bit, 16bit ⑤ チャンネル 1ch (モノラル), 2ch (ステレオ) 2chの場合、leftチャンネルを再生
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61の値は設定できません。 0, 1, 2を設定した場合、「LCDコントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更することができます。 62～5000Hzを設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10秒単位で設定
動作デバイス	ブザー、バイブレータ、ブザー+バイブレータから選択



## 2-2-4 バーコード読取設定

商品コード バーコード読取設定 (BHT-1300)

読取バーコード

☒ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ STF

☐ NW7 ☐ Code39

☐ Code93 ☐ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ QRコード ☐ iQRコード ☐ PDF417 ☐ Data Matrix

☐ MaxiCode ☐ EAN-UCC Composite

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大  桁 最小  桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置

チェックデータ

チェック方法

入力データ選択

☐ 指定文字を削除する

キャンセル 確定

「1 桁目から 13 桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1 桁目から 13 桁」がデータ項目のデータになります

「9999 桁目から 13 桁」と設定した場合は、「末尾から 13 桁」がデータ項目のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。(1 ~ 3500) NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、データ選択で使います。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字を削除	選択したデータから指定した半角文字を削除して入力データにします。3文字まで指定できます。



## ○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 <b>注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。</b>
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ <b>注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。</b>
ITF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
STF	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
NW7	チェックデジット (モジュラス16) の設定可能
Code 39	チェックデジット (モジュラス43) の設定可能 数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
Code 93	数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字 (0~9), 英字 (A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
QRコード	マイクロQR, QRモデル1, QRモデル2 (BHT-1300Qのみ)
iQRコード	正方形iQRコード, 長方形iQRコード (BHT-1300Qのみ)
PDF417	マイクロPDF417, PDF417 (BHT-1300Qのみ)
Data Matrix	正方形Data Matrix, 長方形Data Matrix (BHT-1300Qのみ)
MaxiCode	BHT-1300Qのみ
EAN・UCC Composite	共通商品コード, EAN-128, RSSのCOMPOSITEバーコード (BHT-1300Qのみ)
ユーザー定義	2段バーコード, 3バーコード (BHT-1300Qのみ) の読取設定など、ユーザー独自に読取設定 をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, . . . . . , <第20読み取りコード> <b>不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。</b>



## ■読取バーコードのユーザー定義

読取バーコードのユーザー定義は、ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。

＜第 1 読み取りコード＞, ＜第 2 読み取りコード＞, . . . . . , ＜第 16 読み取りコード＞

[illegible]

BHT-BASICプログラミングマニュアル（BHT-1300シリーズ用）よ

## ■ 読み取りコード (BHT-1300B)

読み取りコードには、共通商品コード（JAN, EAN, UPC）、インターリーブド2of5（ITF）、Codabar（NW7）、Code39、Code93、Code128、スタンダード2of5（STF）、RSS があります。

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [ : [コード] [1文字目 [2文字目] ] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド 2 of 5 ( I T F )

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]]

**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。



#### □ C o d a b a r (NW7)

書式： N [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, C または D を指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ C o d e 3 9

書式： M [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ C o d e 9 3

書式： L [ : [最小桁数 [-最大桁数] ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



#### □ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式: K[: [最小桁数 [-最大桁数]]]

**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

#### □ スタンダード2of5 (STF)

書式: H[: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD] [スタート ストップ]]

**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 $\leq$ 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

**CD**に**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

**スタートとストップ**は、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。**N**を指定すると標準、**S**を指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

#### □ GS1 DataBar (RSS)

書式: R



## ■ 読み取りコード (BHT-1300Q)

読み取りコードには、2DコードのQRコード、PDF417、MaxiCode、DataMatrix、EAN・UCC Compositeおよび共通商品コード(JAN, EAN, UPC)、インターリーブド2of5(ITF)、Codabar(NW7)、Code39、Code93、Code128、RSSがあります。

### □ QRコード

書式: Q[:[シンボル種別][最小コードバージョン][-最大コードバージョン][連結モード]]]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロQR
M	QRモデル1
L	QRモデル2

シンボル種別を省略すると、マイクロQR、QRモデル1、QRモデル2を読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1～4	S
1～22	M
1～40	L

最小コードバージョン≤最大コードバージョンでなければなりません。

最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでのQRコードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンのQRコードしか読み取れません。

連結モードにEを指定すると、最大16分割されたQRコードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割されたQRコードシンボルの読み取りは禁止となります。



連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが2回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが1回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでないQRコードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を3秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、QRコード以外の読み取りは禁止となります。

## □ i QRコード

書式： G [ : [シンボル種別 [最小コードバージョン] [ー最大コードバージョン] [連結モード] ]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形 i QR
R	長方形 i QR

シンボル種別を省略すると、正方形 i QR，長方形 i QRを読むことができます。

最小コードバージョンと最大コードバージョンは、読み取り可能なQRコードの最小と最大のコードバージョンで、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コードバージョン	シンボル種別
1 ~ 6 1	S
1 ~ 1 5	R

最小コードバージョン ≤ 最大コードバージョンでなければなりません。





最小コードバージョンと最大コードバージョンの両方を省略すると、各シンボル種別の最大コードバージョンまでの i Q R コードを読み取ることができます。最大コードバージョンだけを省略すると、最小コードバージョンで指定したバージョンの i Q R コードしか読み取れません。

連結モードに E を指定すると、最大 16 分割された i Q R コードシンボルの読み取りを許可します。

連結モードを省略すると、分割された i Q R コードシンボルの読み取りは禁止となります。

連結コードの読み取りでは、ブザーの鳴動はは次のようになります。連結コードの最初のコードを読み取ると、ブザーが 2 回鳴動し連結コードの読み取りモードに入ります。その後は、連結コードを読み取るたびにブザーが 1 回鳴動し、最後のコードを読み取ると、3 回鳴動して連結コードの読み取りを完了します。

連結コードの読み取り順序は任意ですが、すべての連結コードを読み取る必要があります。一度読み取った連結コードは、その連結コードの読み取りが完了するまでは、再度読み取りを行なっても読み取りません。

次の場合は、連結コードの読み取りが完了しなくても、連結コードの読み取りモードを終了して読み取ったデータはすべて破棄されます。

- ・ 連結コードでない i Q R コードを読み取った場合
- ・ 別の連結コードを読み取った場合
- ・ 読み取り口を 3 秒以上コードから外した場合
- ・ トリガスイッチを放した場合

連結コードの読み取り中は、連結コードの読み取りが終了するまで、i Q R コード以外の読み取りは禁止となります。

#### □ P D F 4 1 7

書式： Y [ : [シンボル種別] ]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	マイクロ P D F 4 1 7
M	P D F 4 1 7

シンボル種別を省略すると、マイクロ P D F 4 1 7、P D F 4 1 7 を読むことができます。

#### □ M a x i C o d e

書式： X



## □ Data Matrix

書式： Z [ : [ シンボル種別 [ 最小コード番号 ] [ - 最大コード番号 ] ] ]

シンボル種別には、次の値が設定可能です。

シンボル種別	読み取り可能コード
S	正方形 Data Matrix
R	長方形 Data Matrix

シンボル種別を省略すると、正方形 Data Matrix，長方形 Data Matrix を読むことができます。

最小コード番号と最大コード番号は、読み取り可能な Data Matrix の最小と最大のコード番号で、シンボル種別ごとに次の値が設定可能です。

設定可能コード番号	シンボル種別
1 ~ 24	S
1 ~ 6	R

最小コード番号 ≤ 最大コード番号 でなければなりません。

最小コード番号と最大コード番号の両方を省略すると、各シンボル種別の最大コード番号までの Data Matrix を読み取ることができます。最大コード番号だけを省略すると、最小コード番号で指定したコード番号の Data Matrix しか読み取れません。コード番号とセル数の対応は以下の通りです。

### 正方形 Data Matrix

コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL	コード番号	ROW X COL
1	10 X 10	7	22 X 22	13	44 X 44	19	88 X 88
2	12 X 12	8	24 X 24	14	48 X 48	20	96 X 96
3	14 X 14	9	26 X 26	15	52 X 62	21	104 X 104
4	16 X 16	10	32 X 32	16	64 X 64	22	120 X 120
5	18 X 18	11	36 X 36	17	75 X 72	23	132 X 132
6	20 X 20	12	40 X 40	18	80 X 80	24	144 X 144



## 長方形DataMatrix

コード 番号	ROW X COL	コード 番号	ROW X COL
1	8 X 18	4	12 X 36
2	8 X 32	5	16 X 36
3	12 X 26	6	16 X 48

## □ EAN・UCC Composite

書式： V

共通商品コード、EAN-128、RSSのCompositeバーコードを読み取ることができます。

## □ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式： A [:[コード] [1文字目 [2文字目] ] [サプリメンタル]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

## □ インターリーブド2 of 5 (ITF)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁



までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

**CD**に**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### ☐ **C o d a b a r (NW7)**

書式: N[:**最小桁数**[-**最大桁数**]]**[スタート ストップ]** **[CD]**

**最小桁数**と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

**スタート**と**ストップ**は、**スタート**キャラクタと**ストップ**キャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、**スタート**キャラクタと**ストップ**キャラクタも含まれます。

**CD**に**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### ☐ **C o d e 3 9**

書式: M[:**最小桁数**[-**最大桁数**]] **[CD]**

**最小桁数**と**最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

**CD**に**C**を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### ☐ **C o d e 9 3**

書式: L[:**最小桁数**[-**最大桁数**]]



最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ **GS1-128/EAN-128/Code128**

書式： K [ : [最小桁数 [-最大桁数] ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ **GS1 DataBar (RSS)**

書式： R

□ **多段コード読み取り**

書式： &

多段コードを読み取るには、&を指定し、その後に続けて読み取るコードを指定します。段数は3段まで設定できます。

&, <1段目読み取りコード>, <2段目読み取りコード>, <3段目読み取りコード>と設定してください。

多段コードとして指定できる読み取りコードは、共通商品コード, インターリーブド of 25 (ITF), Codabar (NW7), Code39, Code93, Code128です。

(1) 多段コード指定は1段で読む読み取りコードの指定とは独立しています。

例：共通商品コードEAN-8とEAN-13の2段の場合

A:B,A:A

例：共通商品コードEAN-8を1段とCode39を2段の場合

A:B,&M,M

2段コードは最後に指定します。



(2) 2次元コードと多段コードを同時に指定で指定することができます。

例：QRコードとCode 39 3段の場合

10桁のコードでCD付き」

**Q, &, M, M, M**

(3) 多段コード指定では先頭の2文字を指定することで読み取り順序を指定することが可能です。

例：ITF 3段（文字指定付き）次の順序で読み取る場合－「“12”で始まるコード」，「“34”で始まる6～10桁のコードでCD付き」，「“56”で始まる12桁のコード」

**&, I::12, I:6-10C:34, I:12:56**

(4) コード種類が同じでデータも同じコードが含まれる場合は読み取りができません。

1段目 EAN-13 4912345678901

2段目 EAN-13 12000000000003

3段目 EAN-13 4912345678901

上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。

**&, A:A49, A:A12, A:A49**

(5) コード種類、桁数、条件が同じ指定を1段読み取りと多段コード読み取りに指定した場合、1段コードは読み取りができません。

1段コード EAN-13 4901234567894

多段コード EAN-13 4909876543214

EAN-13 12000000000003

上記コードは、次の指定で読み取ることはできません。

**A:A49, &, A:A49, A:A12**

(5) 多段コード指定ではITFは4桁未満のものを読み取ることができません。ただし、桁数を指定した場合は読み取ることができます。

(6) 共通商品コードのサプリメンタルコードの多段コード指定はできません。



## 2-3 データ保存

照合結果を保存して送信する場合は、[照合結果を保存する] をチェックして設定してください。

ここをクリック →

**N対N照合 設定(BHT-1300)**

☒ 照合結果を保存する  
 保存ファイル名: A.TXT      保存フィールド数: 8  
 保存条件: 照合OK

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長 (バイト)
1	データ区分データ	6
2	照合データ 1	13
3	照合データ 2	13
4	照合データ 3	13
5	OK/NG	2
6	照合数	4
7	日付 (YYYY/MM/DD)	10
8	時刻 (HH:MM:SS)	8

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8 文字>、<拡張子 (大文字半角英数字 1～3 文字)> (拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMP を使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大 16 フィールドまで設定します。
保存条件	照合OK, 照合NG, 照合OK/NG から選択します。 照合OK: 照合OKになった場合にデータを保存 照合NG: 照合NGになった場合にデータを保存 (エラー表示した場合はデータ保存しません) 照合OK/NG: 照合OKと照合NGの場合にデータを保存

## ■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、H t N o , データ区分, 入力照合データ, O K / N G , 照合数, 日付, 時刻から選択します。

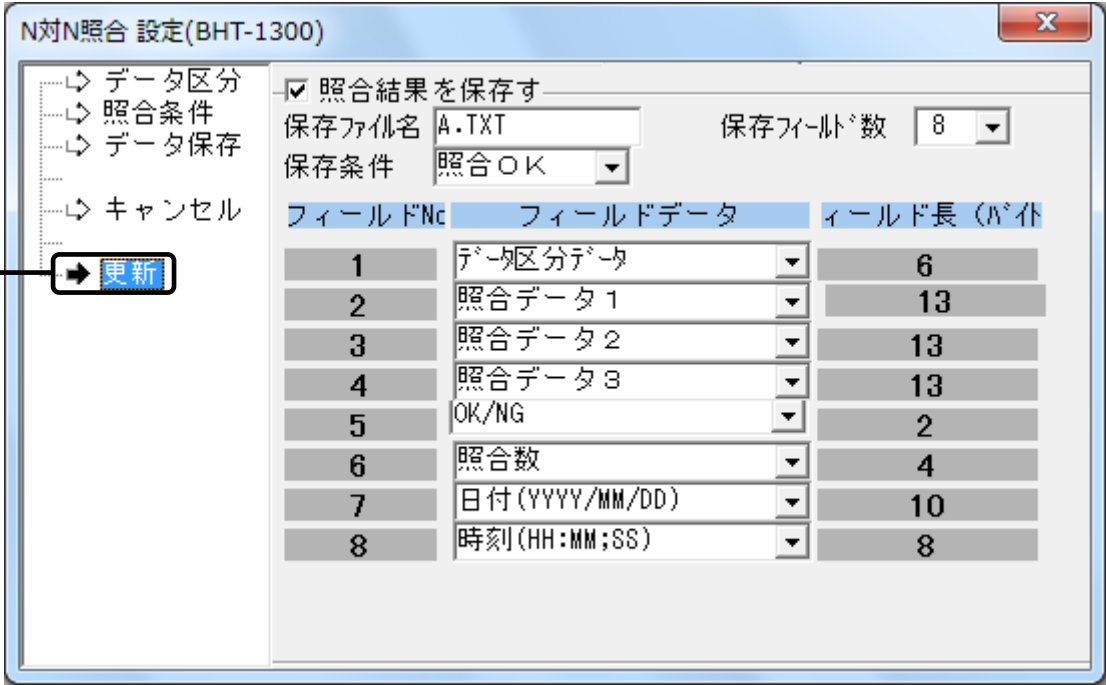
フィールドデータ	説明
H t N o	アシストパックのサブメニューにおける 3. HtNo 設定で設定した数値。
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
照合 1 ~ 2 0 データ	照合先において読み取ったバーコードから取得した照合データ
O K	“OK”
N G	“NG”
O K / N G	“OK” or “NG”
照合数	日付と時刻以外が同じデータの照合数を保存します。
日付 A (YYYY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y / M M / D D ( 1 0 桁 ) を保存します。
日付 B (YYYYMM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y M M D D ( 8 桁 ) を保存します。
日付 C (YY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y / M M / D D ( 8 桁 ) を保存します。
日付 D (YYMMDD)	タイムスタンプで Y Y M M D D ( 6 桁 ) を保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	タイムスタンプで H H : M M ; S S ( 8 桁 ) を保存します。
時刻 B (HHMMSS)	タイムスタンプで H H M M S S ( 6 桁 ) を保存します。
時刻 C (HH:MM)	タイムスタンプで H H : M M ( 5 桁 ) を保存します。
時刻 D (HHMM)	タイムスタンプで H H M M ( 4 桁 ) を保存します。



## 2-4 設定更新

[更新] をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

ここをクリック →



**N対N照合 設定(BHT-1300)**

☒ 照合結果を保存す

保存ファイル名  保存フィールド数

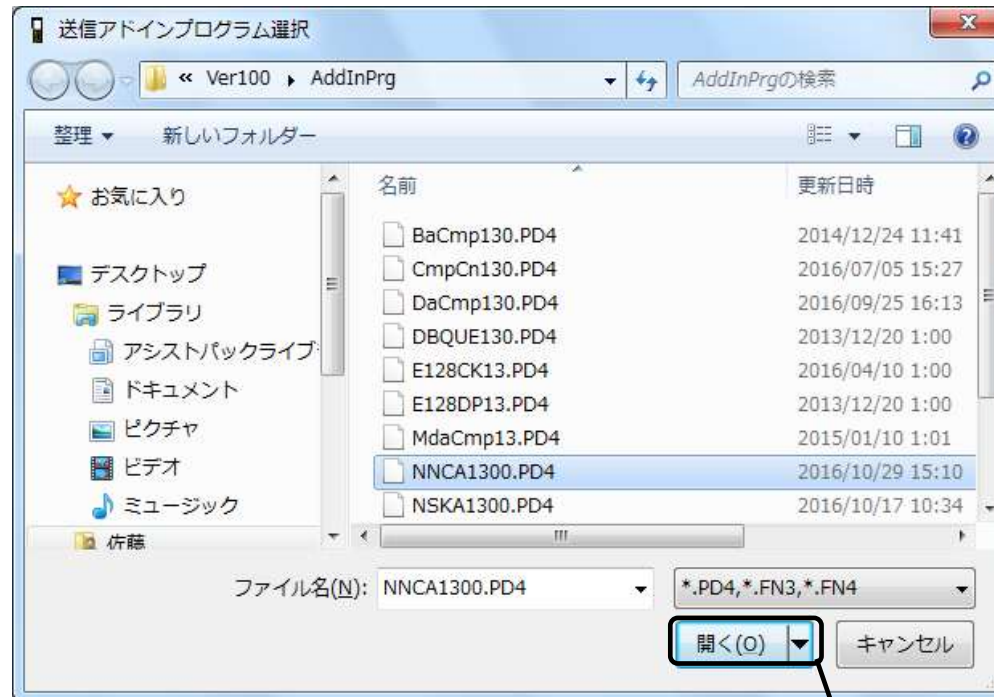
保存条件

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長 (バイト)
1	データ区分データ	6
2	照合データ 1	13
3	照合データ 2	13
4	照合データ 3	13
5	OK/NG	2
6	照合数	4
7	日付 (YYYY/MM/DD)	10
8	時刻 (HH:MM;SS)	8

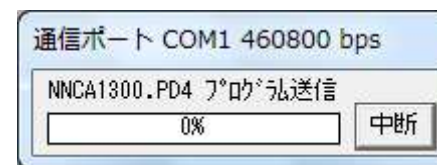
### 3 ハンディターミナルプログラム

#### 3-1 アドインマスター参照照合プログラムダウンロード

アドインマスター参照照合プログラム「NNCA1300.PD4」をBHT-1300にダウンロードします。



NNCA1300.PD4 を  
選択してクリック



**サブメニュー**

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

**M1** 戻る    **M2** 実行

**M2** 実行



**ファイル受信**  
通信ポート選択

- 1. CU-USB 460.8K**
2. USB コネクタ 460.8K
3. CU-RS232 115.2K
4. Bluetooth

**M1** 戻る    **M2** 選択

**M2** 選択



**ファイル受信**

通信ユニットに  
セットしてください

**M1** 戻る    CU-USB



通信ユニット  
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

NNCA1300.PD4 送信中

62%

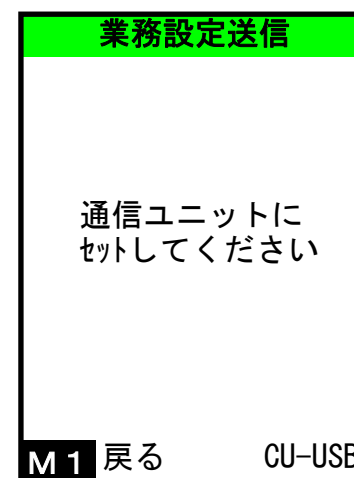
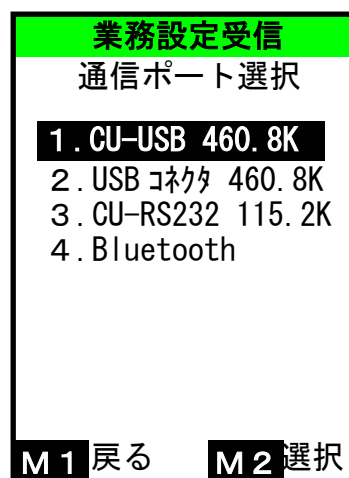
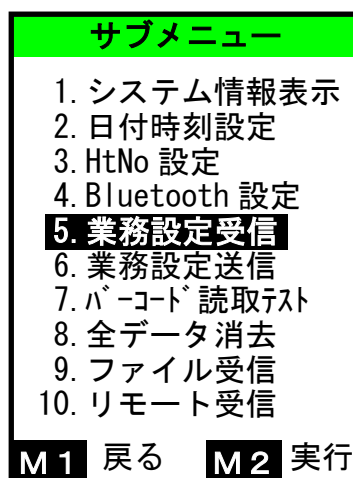
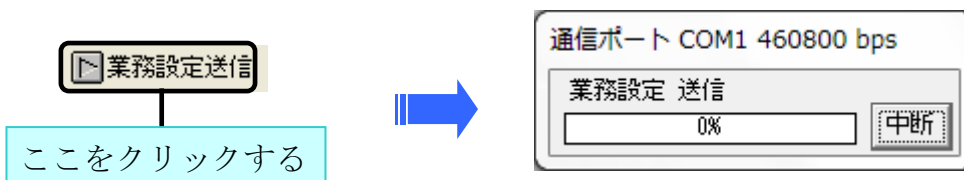


プログラム転送

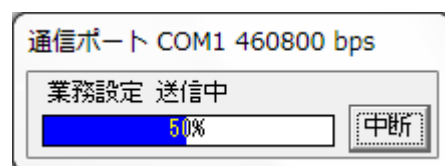
正常終了

### 3-2 業務設更新

アドインマスター参照照合を設定した業務設定をBHT-1300に送信して更新します。



通信ユニット  
にセット



### 3-3 アドインN対N照合プログラム実行

業務メニュー ▼

1.N対N照合

F1 Ver F2 サブメニュー M2 実行

M2 実行

照合元データ登録

1 / N

.....

.....

.....

.....

M1 終了 M2 確定

照合元の順番 / 業務設定において設定した照合元データ数

照合元データを「HTにおいて登録」に設定した場合、最初の実行においてこのがめmm

▲：前データへ  
▼：次データへ  
M1：処理を取消して業務メニューへ戻る  
M2：登録データを確定して次の処理へ

N対N照合

データ区分

.....

M1 終了 M2 確定

データ区分を設定した場合のみ表示します。

M1：業務メニューに戻る  
M2：データ確定



3-4 登録順照合

照合元データの登録順番にデータを表示し、これに従って照合します。

**N 対 N 照合**  
**1 / N**  
**照合先**  
4912345678901  
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字  
**M 1** 戻る **M 2** 変更

M 1 : 前画面に戻ります。  
M 2 : 照合元データ変更

照合元データ登録画面

**照合元データ登録**  
**1 / N**  
4912345678901  
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字  
**M 1** 戻る **M 2** 確定

照合 OK

**N 対 N 照合**  
**1 / M**  
**照合先**  
4912345678901  
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字  
**OK**

照合 NG の場合

**N 対 N 照合**  
**1 / N**  
**照合先**  
4901234567890  
照合先の情報表示  
**NG**

データ保存で保存条件が照合 NG、照合 OK・NG の場合にデータを保存します。

次の照合



照合 OK

**N 対 N 照合**  
**2 / N**  
**照合先**  
4912345678902  
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字  
**M 1** 取消

照合順番 / 照合元データ登録数

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。

M1: 照合中の処理を取消して、最初の照合にもどります。



最後の照合 OK

**N 対 N 照合**  
**N / N**  
**照合先**  
4912345678902  
照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字  
**OK**



全照合を終了  
次の照合へ



3-5 順不同照合

照合元データの登録順番に関わらず照合します。

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。

照合数 / 照合元データ登録数

N 対 N 照合

0 / N

照合先

M 1 戻る M 2 変更

照合 OK

N 対 N 照合

1 / M

照合先

4912345678901

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字

OK

次の照合  
照合 OK

N 対 N 照合

1 / N

照合先

M 1 取消

M1: 照合中の処理を取消して、最初の照合にもどります。

M 1 : 前画面に戻ります。  
M 2 : 照合元データ変更

照合元データ変更画面

照合元データ変更

1 / N

4912345678901

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字

M 1 戻る M 2 確定

照合 NG の場合

N 対 N 照合

0 / N

照合先

4901234567890

照合先の情報表示

NG

データ保存で保存条件が照合 NG、照合 OK・NG の場合にデータを保存します。

最後の照合 OK

N 対 N 照合

N / N

照合先

4912345678902

照合先の情報をマスターファイルから参照して表示します。  
半角最大 100 文字

OK

データ保存で保存条件が照合 OK、照合 OK・NG の場合にデータを保存します。

全照合を終了  
次の照合へ



### 3-6 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードに CODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコード データエラー	バーコード データエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR 記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
照合元データ未登録	照合元データ未登録	照合元データが登録されていない場合
処理エラー	処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。





### 3-7 照合データ送信

未送信のデータが保存されている業務の左に ▶ を表示します。送信したい業務を選択して**右トリガキー**を押します。

業務メニュー ▼

▶ 1. N 対 N 照合

F1 Ver F2 サブメニュー M2 実行

右トリガキー  
▶

N 対 N 照合>送信

通信ユニットに  
セットしてください

M 1 戻る CU-USB

通信ユニット  
にセット  
▶

N 対 N 照合>送信

送信中  
00001

M 1 中断 CU-USB

送信終了  
↓

N 対 N 照合>送信

送信終了

M 2 確認

確認  
▶ 業務メニューに戻る

未送信の保存データがあると  
業務メニューに ▶ を表示します。

### 3-8 マスターファイル受信

サブメニューの「9. ファイル受信」を使用してマスターファイルを受信してください。

受信するファイル名のファイルが存在する場合は、予め送信／削除してから受信してください。

